

平成 29 年度丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略第 2 回改訂
新規・拡充施策等 説明資料

1. 現 状

- (1) 人口 平成 30 年 1 月の総人口は、前年同月と比べ、647 人減少。年間出生数は 441 人となった。

年	人 口			
	世帯数	総数	男	女
H26	22,510	65,840	31,352	34,488
H27	22,555	65,203	31,054	34,149
H28	22,583	64,565	30,754	33,811
H29	22,675	63,812	30,387	33,425
H30	22,885	63,165	30,071	33,094

(兵庫県推計人口 1 月 1 日現在より)

年	純増減	自然動態			社会動態		
		出生	死亡	増減	転入	転出	増減
H25	△759	509	904	△395	1,403	1,767	△364
H26	△695	495	912	△417	1,451	1,729	△278
H27	△683	457	849	△392	1,420	1,711	△291
H28	△753	469	903	△434	1,432	1,751	△319
H29	△647	441	852	△411	1,492	1,728	△236

(兵庫県統計課「兵庫県の人口の動き」より)

- (2) 雇用 有効求人倍率は、1.72 倍（平成 29 年 12 月）と 3 年連続 1 倍を超え、雇用情勢の改善が続く一方で企業の人手不足が生じている。

年度	有効求人倍率			1 人あたりの市(県・国)民 所得		
	丹波市	兵庫県	全国	丹波市	兵庫県	全国
H25	0.77	0.79	0.97	2,290 千円	2,665 千円	2,938 千円
H26	0.96	0.91	1.11	2,286 千円	2,701 千円	2,981 千円
H27	1.12	1.01	1.23	-	2,752 千円	3,071 千円
H28	1.23	1.17	1.39	-	-	-
H29	1.37	1.30	1.53	-	-	-

(有効求人倍率は各年平均値)

(国民経済計算年報より)

2. 総合戦略の改訂の実施

- (1) ①活躍人口の増加、②自然減をくい止め社会増に転じる、③人口減少下における地域経済の発展を視野に新規・拡充・廃止事業を反映。
(2) それぞれの基本目標に掲げる事業について現状数値や KPI 等の確認を実施。

⇒ 【新規 10 事業】、【拡充 7 事業】、【廃止 1 事業】
【KPI の見直し 13 事業】

基本目標 1（しごと） 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①農業・農村の活性化に向け、女性の能力を積極的に活かすことが不可欠であり、農業経営の多角化による高付加価値化の担い手として活躍が期待されている。しかし、女性農業者は、市内に点在し孤立しがちであり、支援も十分とは言えない。

②認定農業者の経営管理能力や対外信用力の向上、経営発展の可能性の拡大、農業従事者の福利厚生面の充実、経営継承の円滑化が求められている。

③鳥獣被害が増加しており、農林作物被害、住環境被害の防止は、市の産業や環境に関わるものであることから、被害を未然に防止する取り組みが必要である。獣害防護柵の設置において、県道や市道等の扉が設置出来ない箇所が野猪等の出入口となっており被害の防止効果が低くなっている。

①生産者の高齢化や後継者不足、栗の老木化による栽培面積の減少により、出荷量の減少・ブランドとしての競争力の低下が懸念される。

②小豆は、播種・防除・収穫・選別作業等労力負担が多いことや気候要因により収量・品質が大きく左右されるため、供給量が安定的に確保できていない。生産面積の拡大や品質向上など丹波大納言小豆ブランドの強化を図る必要がある。

③国からの米の生産数量を配分することにより、水稻の安定的な需給調整が図れていたが、平成30年産米から配分と作付面積当たりの交付金が廃止される。これにより水稻の過剰作付と特産物の作付面積の減少が懸念される。

①丹波市産農産物の認知度を更に高めるための特産物等の海外展開を視野に入れた取り組みが必要である。

事業名・事業内容等

【事業名】**新** 未来に向けた農業者活躍応援事業

- ①女性農業者支援 H30 予算額 269 千円
女性農業者を様々な形で支援するための組織づくりを目指した取り組みとして、研修会や勉強会などの開催や先進地などの視察研修を実施する。
- ②認定農業者法人化事業 H30 予算額 600 千円 定額：20 万円
「経営規模拡大」、「雇用の創出」や「後継者不在に悩む経営体の事業継承を推進」するために、法人化に要する費用の一部を助成する。
- ③鳥獣被害防止総合対策事業 H30 予算額 91,800 千円
鳥獣害防護柵設置に係る国庫補助事業の地元負担率を軽減し、門扉の設置できない道路に網目の大きいグレーチングを設置し、野猪等の侵入を防ぐ。また、ツキノワグマの出没に対し、誘引物である果樹等の伐採に係る取り組みを支援する。

【事業名】**拡** 特産物生産拡大事業

- ①栗の生産拡大支援 H30 予算額 5,095 千円
全国ブランドの「丹波栗」の生産面積、生産量を増加させるため、県、JA と共同で、大規模な新植事業や機械導入、栽培指導、病虫害駆除、剪定作業を支援する。（農振農用地は果樹経営支援事業（国庫補助）、農振農用地以外は市単独事業）
- ②小豆の高収穫技術研修支援 H30 予算額 5,625 千円 機械導入に要する経費の75%以内（上限額あり）
丹波大納言小豆の安定的な収量・品質を確保するため、JA や県、商工会、観光協会、生産者と連携し、生産環境の整備に係る機械等の導入の支援や栽培技術講習会等を実施する。また、ぜんざいフェアの開催や料理教室、学校給食への食材提供など、小豆の魅力を市内外に発信する。
- ③特産物振興交付金 H30 予算額 9,200 千円
国の米施策により米の生産目標と米の交付金が廃止となるなか、丹波市独自の米の生産目安を農家毎に示すと共に、特産物の小豆と黒大豆の生産目標を農会毎に提示する。また、小豆・山の芋に対する特産物の作付面積に対し交付単価の加算やニンニクを特産物に追加するなど、更に生産拡大を図る。

【事業名】**新** 海外輸出支援事業

- ①海外輸出支援事業 H30 年度予算 2,500 千円 補助率：1/2 補助限度額：500 千円
丹波市産農産物等の海外における販路の開拓や拡大を目指す事業者や生産団体等に、輸出への取り組みを支援する。

目標値（H31）

【目標値】

- ・組織加入数
45 人 ⇒ 50 人
- ・認定農業者法人化数
18 法人/年 ⇒ 22 法人/年
- ・鹿捕獲頭数
433 頭/年 ⇒ 550 頭/年

【目標値】

- ・丹波栗の作付面積
105ha ⇒ 110ha
- ・丹波大納言小豆の作付面積
303ha ⇒ 350ha

【目標値】

- ・海外輸出事業者数
3 事業者/年 ⇒ 5 事業者/年

基本目標 1（しごと） 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①②市内に所在する社会福祉法人等が運営する福祉事業所の人材確保が困難な中、U・I・Jターンを含め、広域的に人材を確保していく必要がある。

③出産、子育て及び介護等の家庭事情により、止むを得ず離職している女性が、福祉の現場において自身が有する資格を活かし、再び社会で活躍できる支援が必要である。

④「福祉」に関する市民の認知度がまだまだ低い状況に鑑み、平成 29 年度に「第 7 期介護保険事業計画」、「丹波市障がい者・障がい児福祉プラン」、「第 2 次丹波市配偶者等からの暴力対策基本計画」を同時期に改定したことを契機に、国が進める「我が事・丸ごとの地域共生社会の実現」に向け、更なる認知度を高める取組みが必要である。

①地域経済の活性化と市内の中小企業者及び小規模事業者の育成並びに発展を図るためには、丹波市中小企業・小規模企業振興基本条例にもとづく基本施策を立案し、適切に実施することが大切であることから、市内各事業所の基礎データを収集し的確な現状把握に努め、分析することが必要である。

②近年、インターネットを活用した情報発信による自社の PR や商品の販売が有効であり、その効果が注目されており、市内の事業者も関心が高いところである。市内中小企業者、小規模事業者における経営安定や事業拡大は、自社商品、サービス等の販路確保、拡大が重要である。

③市内商工業者の地域資源への関心を高め、その活用の促進や農商工連携を推進する必要がある。

事業名・事業内容等

【事業名】**拡** 福祉等人材確保事業

①福祉人材確保奨学金返還支援補助金 H30 年度予算 2,700 千円
市内に居住し、かつ市内の社会福祉事業所等に必要な資格を有して就労した場合、日本学生支援機構奨学金の返還の一部（年間上限額 10 万円）を補助する。

②福祉人材確保家賃補助事業 H30 年度予算 3,600 千円
補助金の月額、家賃から住宅手当を控除した額の 1/2（上限額 1 万 5 千円） 年額は最大で 18 万円
補助期間：36 ヶ月
平成 30 年 4 月 1 日以降、市内の福祉事業所に就職する有資格者に対し、本人の名義で契約する民間賃貸住宅の家賃に係る経費の一部を補助する。

③女性有資格者福祉人材支援補助金 H30 年度予算 1,000 千円
範囲を拡大する資格：・保育士、幼稚園教諭（どちらか一方の資格のみで可） ・介護支援専門員・介護職員初任者研修、介護職員実務者研修、旧ホームヘルパー養成研修 1 級又は 2 級課程、旧介護職員基礎研修を終了している女性の方（従前資格：社会福祉士、看護師、理学療法士ほか）
女性有資格者福祉人材バンクによる職業紹介や就労支援を行っている。平成 30 年度からは、福祉の現場で働きたいという潜在的な有資格者の意欲を高めるとともに、より多くの福祉人材の確保に努めるため、対象となる女性有資格者の資格範囲を広げる。

④福祉施策 PR 事業 H30 年度予算 302 千円
市広報紙、防災行政無線放送、ダイレクトメール及び各種講演会等を通じて周知・啓発を行い、「限られた文字」や「お知らせ程度の言葉」だけでは伝えきれない担当者等の「生の声」や「思い」を幅広く発信し、市民に「福祉」に関する認知度を高めるための新たなツールを確保し、周知・啓発に努める。

【事業名】**拡** 中小企業支援事業

①経営支援システム構築事業 H30 年度予算 5,000 千円 市内各事業所の基本情報や経営指導、補助金等支援状況をデータベース化し、分析することを目的としたシステム（丹波市中小企業者等経営支援システム）構築の 1/2
丹波市商工会との連携をさらに強化し、丹波市中小企業者等経営支援システムを導入する。

②中小企業ホームページ作成支援 H30 年度予算 4,500 千円 ホームページの新規作成に要する費用の 1/2
市の商工振興策の一環として、自社のホームページを新規に作成する中小企業者等に対して、その経費の一部を助成する。

③地域資源活用促進等事業 H30 年度予算 3,500 千円
丹波市内の商工業者等が地域資源を活用した商品やサービスの開発にかかる経費の一部を補助する。

目標値（H31）

【目標値】

- ・登録者就職数
6 件/年 ⇒ 10 件/年
- ・市内協力福祉事業所数
17 か所 ⇒ 17 か所以上
- ・福祉人材確保家賃補助活用件数
H30 新規 ⇒ 20 件/年

【目標値】

- ・補助金を活用して HP を作成した件数
H30 新規 ⇒ 30 件/年
- ・地域資源を活用した商品開発件数
5 件/年 ⇒ 5 件/年

基本目標 2（交流） 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①丹波市の地域資源を活かし、市の認知度やイメージ向上を図り人口減少下においても持続可能な地域経済を構築する必要がある。

①若者が自ら企画運営してまちづくりに参画し、行政・地域とともに市のイメージアップに取り組む機会を創設する必要がある。
 ②市のまちづくりへの想いを市民憲章として策定し、市民の市への愛着や一体感を醸成する必要がある。
 ③市とゆかりのある市外の方に情報を提供し、交流を図ることにより、市の知名度の向上、観光客の誘引、移住・定住の促進等に寄与する必要がある。
 ④丹波市のさらなる一体感の醸成と、市民のふるさと意識の高揚及び丹波市のイメージアップを図る必要がある。

①（市内の）廃校となった小学校の利活用の推進が求められている。

事業名・事業内容等

【事業名】**新** 全国公募によるシティプロモーションの推進

①丹波市創生シティプロモーション全国公募パートナーシップ事業 H30年度予算 2,310 千円
 全国から専門的な知見、企画力、実行力をもつ事業者を選定し、協働して事業展開する。
 H29年度：協定3事業

【事業名】**新** イメージアップによるシティプロモーションの推進

①高校生提案事業 H30年度予算 3,633 千円
 タウンミーティングでの高校生からの提案を実行することにより「暮らし続けたいまちづくり」を体感してもらいまちづくりへの参画を促す。関西学院大学の学生がプロジェクトチームに参加し高校生と共に計画を作成し市内在住高校生が JR 柏原駅周辺にイルミネーションを実施する。
 ②丹波市市民憲章 H30年度予算 598 千円
 丹波市市民憲章を制定し、丹波市民としての規範意識や誇りの醸成につなげ、市政 15 周年への機運を醸成する。
 ③ふるさと住民登録制度 H30年度予算 1,271 千円
 丹波市出身者やゆかりや関心がある市外在住者に対し、丹波市の情報提供やまちづくりに参画していただくことで結び付きを強化し、交流人口や関係人口の増加につなげる。
 ④丹波市の歌制定事業 H30年度予算 5,077 千円
 平成 29 年度は、丹波市の歌制定委員会を設置し、作曲家千住明氏に依頼した「丹波市の歌（仮）」のメロディが完成した。平成 30 年度は、公募により歌詞を決定する。

【事業名】**新** 廃校施設利活用奨励補助金

①廃校施設利活用奨励補助金 H30年度予算 6,100 千円
 青垣小学校の発足に伴い廃校となった、旧芦田・神楽・遠阪小学校の利活用を図るために進出事業者に対して初期投資等に係る費用の一部を助成する。（施設改修補助、設備補助、従業員家賃補助、雇用補助）

目標値（H31）

【目標値】

- ・宇宙教室参加組数
60 組/累計 ⇒ 300 組/累計
- ・スタディツアー参加者数
21 人/累計 ⇒ 200 人/累計

【目標値】

- ・ふるさと住民登録者数
H30 新規 ⇒ 100 人
- ・ふるさと住民登録者の来丹者数（延べ人数）
H30 新規 ⇒ 200 人
- ・丹波市の歌歌詞公募作品数
H30 新規 ⇒ 100 作品（H30）

【目標値】

- ・利活用した廃校施設数
1 施設 ⇒ 3 施設
- ・廃校利活用事業者数
1 事業者 ⇒ 5 事業者

基本目標 2 (交流) 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①②③④⑤2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせて、訪日外国人観光客が増加すると予想され、本市においてもインバウンド観光への対応が急がれている。外国人観光客をはじめとする全ての観光客が市内を快適に周遊できるように市のホームページやパンフレットの多言語化、Wi-Fi機器の設置、公衆トイレ等便器の洋式化等を整備する必要がある。

①③④⑤篠山層群に関連する恐竜の骨格模型の購入による展示物の拡充や、丹波竜化石工房夏期特別展、丹波竜フェスタの開催により、丹波竜をはじめ篠山層群から発見された化石を活用し、誘客数の増加や交流人口の拡大を図る必要がある。

②「にっぽん恐竜協議会」の連携を生かし丹波市の恐竜を題材とした現地学習により、恐竜に対する興味関心を高め、ふるさとの教育資源を大切にすることを育む必要がある。

事業名・事業内容等

【事業名】**新** 観光インフラ整備事業

- ①市公式HP多言語化事業 H30年度予算10,000千円
市公式ホームページのサーバを更新するとともに、多言語化など一部リニューアルを実施する。
- ②公衆トイレ洋式化工事 H30年度予算4,900千円
公衆トイレ等便器の洋式化 ①甲賀山公園公衆便所 1基 ②岩龍寺溪谷公衆便所 1基 ③もみじの里公衆便所 1基 ④仏師の里公衆便所 1基 ⑤興禅寺下休憩所 2基 ⑥もみじの里 5基
- ③ウディプラザ山の駅改修事業 H30年度予算1,561千円
特産物販売や観光情報発信等を行うため、JR柏原駅に併設している同施設の改修工事を行う。(手すり改修、屋根防水工事、外壁補修、屋外便所撤去など)
- ④観光インフラ整備事業(Wi-Fi設置) H30年度予算2,820千円
無料公衆無線LAN(Wi-Fi)機器の設置(予定) ①丹波市観光拠点 ②やすら樹 ③丹波悠遊の森
- ⑤多言語化パンフレット H30年度予算1,599千円
多言語版観光パンフレットの作成(英語、繁体字、簡体字)

【事業名】**拡** 丹波竜活用事業

- ①丹波竜化石工房夏期・冬季特別展 H30年度予算11,616千円
夏休み特別展(7月中旬～8月末)として、丹波竜の全身骨格及び篠山層群に関する恐竜骨格の展示や動く恐竜ロボットの展示を行う。また、8月中旬には、ナイトミュージアムを開催する。冬季特別展(12月下旬～1月末)として、常設展示物及び恐竜フィギュア、恐竜等のおもちゃを多数展示する。
- ②小学校「竜学」交流事業 H30年度予算615千円
小学校6年生の理科の「大地のつくりと変化」の学習単元と関連した丹波竜の化石等を活用した授業を全小学校で実施する。学習した6年生の希望者8名を募集し、2学期の土曜日から火曜日の4日間、北海道むかわ町に「子ども恐竜大使」として派遣する。
- ③丹波竜サイト構築事業 H30年度予算3,887千円
丹波市ホームページ「丹波竜.com」のリニューアル及び多言語化により国内をはじめ近年急増しているインバウンドの取り込みを目指す。
- ④恐竜化石を活用した自治体連携事業 H30年度予算1,526千円
恐竜化石を活用した自治体連携に伴う基本協定書に基づき、新たな自治体の加入によるネットワークの拡充や協議会の法被の作成、丹波竜フェスタ等での相互交流、恐竜かわら版の発行等、連携の強化を図る。
- ⑤丹波竜化石工房の充実 H30年度予算5,400千円
丹波竜が発見された篠山層群に関連する、恐竜の全身骨格を購入し展示を行い、丹波竜化石工房の展示物の充実を図る。

目標値 (H31)

【目標値】

- ・年間観光入込客数
2,110千人/年 ⇒ 3,000千人/年
- ・観光ホームページ閲覧数
248千アクセス/年 ⇒ 315千アクセス/年
- ・公衆用トイレ等洋式便器設置箇所数
5箇所 ⇒ 11箇所
- ・多言語化パンフレット配布数
H30新規 ⇒ 15,000部

【目標値】

- ・丹波竜化石工房来館者数
60,000人/年 ⇒ 65,000人/年
- ・化石発掘現場の来訪者数
30,000人/年 ⇒ 30,000人/年
- ・連携自治体との交流学习に参加した児童数(竜学者数)
0人/年 ⇒ 8人/年

基本目標 2 (交流) 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①空き家・古民家等を丹波らしいまちなみや風景を構成する地域資源として活用して、官民協働で滞在機能や交流機能などを有する施設を整備し、これらと既存の施設を含めて互いに連動・連携することで、「人の行き交い」を創出し、地域課題の解消、観光振興や移住定住の促進、雇用の創出に繋げる必要がある。

①丹波市立水分れ資料館は、開館から約 30 年が経過し、展示内容が陳腐化していることから、新たに「氷上回廊」をテーマに据え、天然記念物級とも評価される「水分れ」の地勢とともに、生態系の豊かさやヒト・モノ・コトの南北交流の歴史に加えて、地球の未来を見据えた環境面にも着目し、これらの特性を総合的に発信できる施設にリニューアルする必要がある。

事業名・事業内容等

【事業名】**新** 農泊推進対策事業

①農泊推進対策事業 H30 年度予算 32,000 千円
柏原地域で古民家（空き家）を取得し、宿泊機能を備えた拠点施設として整備する。
H30 古民家取得・実施設計
H31 改修工事

【事業名】**新** 氷上回廊水分れフィールドミュージアム（仮称）拠点整備事業

①氷上回廊水分れフィールドミュージアム（仮称）拠点整備事業 H30 年度予算 7,360 千円
リニューアルを機に、周辺の地域では、「水分れ」の地勢や公園、向山の豊かな自然等を“地域の宝物”と捉え、市のシティープロモーションの一翼を担うことにより、持続可能な地域の発展と市内各所への誘客を期待するうえでの一つの施策として進める。

目標値 (H31)

【目標値】

- ・体験プログラム参加者数
H30 新規 ⇒ 30 名
- ・施設整備に伴う雇用者数
H30 新規 ⇒ 5 人

【目標値】

- ・水分れ資料館の入館者数
2 千人/年 ⇒ 1 千人/年
- ※H31 年秋ごろから改修工事に入り、以降休館となるため入館者数は、1 千人を見込んでいます。H32.8 月リニューアルオープン予定

基本目標 3 (子育て) 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①少子化の一因である晩婚化、未婚化に対する取り組みとして実施する婚活活動支援事業で、シティープロモーションにおける平成 32 年度の実現目標とする「婚姻数 300 組」の達成に向けて、「婚活おせっかいマスター」による支援の強みを活かしながら、利用者が相談しやすい環境づくりと婚活支援の機運を地域に広げる必要がある。

事業名・事業内容等

【事業名】**拡** 婚活支援事業

①婚活支援事業 H30 年度予算 5,223 千円
従来の婚活支援事業である「婚活おせっかいマスター」による相談支援を中心とする出会いの場の提供、結婚意識を高めるための講座等の実施や補助金の交付等による支援に加え、民間団体との連携により、婚活おせっかいマスターへの支援、活動のマネジメントにより、婚活おせっかいマスターの活動の幅を広げ、出会いの機会を求めている独身男女が、気軽に立ち寄れるサロン等を定期的（月 1～2 回）に開催する。

目標値 (H31)

【目標値】

- ・婚活マスターの登録者数
10 名/年 ⇒ 20 名/年
- ・婚活マスターを通じたお見合い件数
44 件/年 ⇒ 40 件/年
- ・婚活マスターを通じた婚約組数
2 組/年 ⇒ 6 組/年
- ・婚活相談件数
256 件/年 ⇒ 250 件/年

基本目標 4（地域） 新規・拡充事業の全体像

現状・課題等

①平成 29 年より運用を開始している予防接種ネットワーク基盤を活用し、処方・調剤情報を主として、患者を包括的に多職種で連携し、情報共有を図ることとし、さらなる ICT 技術を用いたデータの分析・活用による市民の健康管理、施策の重点化・効率化、医療介護連携の促進をする必要がある。

①②『だれもが主体的に暮らし、共に育ち支えあうまちづくり』を基本理念に掲げ、平成 29 年度策定する『障がい者・障がい児福祉プラン』の具現化するために、障害福祉サービス等の見込み量の確保が重要であるが、現状では福祉人材の不足が大きな課題となっている。

①若者のふるさとへの愛着心醸成と政治への関心を高める必要がある。

①第 2 次丹波市総合計画の策定以降、丹波市人口ビジョンにおける今後さらなる人口減少・少子高齢化の進展、都市機能の核を担う統合新病院の建設など、丹波市を取り巻く情勢はこれからさらに大きく変化することが予測され、それらの変化を見据えた持続可能な新しいまちづくりにむけて、将来のめざすべき都市構造（都市像）とその実現を図る必要がある。

事業名・事業内容等

【事業名】**拡** 医療・健康・福祉・介護分野の ICT 活用事業

①医療介護情報連携システム(予防接種ネットワークシステム・処方調剤情報共有システム)

H30 年度予算 69,000 千円

丹波市版地域包括ケアシステムの一環として、情報共有基盤を構築するとともに、医療介護事業者への情報通信形態は MVNO 方式として、処方・調剤情報を共有する。調剤情報については、電子お薬手帳への情報連携も踏まえて、医療費削減に取り組む。

【事業名】**拡** 障がい者への就労・社会参加、介護職員就労支援

①合理的配慮提供支援事業 H30 年度予算 1,000 千円

事業者や自治会等が障がいのある人に必要な合理的配慮を提供するためにかかる費用の全部又は一部を助成する。

②介護職員初任者研修受講就労支援事業 H30 年度予算 1,000 千円

介護職員として市内の障害者・児入所施設及び障害福祉サービスを提供する事業所に勤務するために介護職員初任者研修を受講し、3ヶ月間以上継続して勤務する介護職員に対して研修受講料の全部又は一部を助成する。

【事業名】**新** 議会運営事業

①フューチャーセッション事業 H30 年度予算 100 千円

議員が高校生との懇談を通じて、若い世代の意見を政策提言に反映できるようにする。また、議員と高校生が、一緒に地域課題や住みたい丹波市を考えることにより、高校生のふるさとへの愛着心醸成と政治への関心の高まりにつなげる。

福知山公立大学の教授等を講師とし、市議会議員、市内高校生等とワークショップを予定している。

【事業名】**新** 丹波市未来都市構造のあり方検討

①丹波市の将来都市像（まちづくりビジョン）の策定 H30 年度予算 18,548 千円

「まちづくりビジョン」の策定に向け庁内外の体制を整え、都市構造の現況・課題の整理や市民アンケート調査を実施、将来都市像と都市構造のあり方の検討・整理、新しい都市構造と連携した持続可能な暮らしの創造に関する取組の検討を行う。

目標値（H31）

【目標値】

- ・ネットワーク利用者の満足度
78% ⇒ 80%
- ・医療機関、薬局、介護事業所参加数
38 事業所 ⇒ 120 事業所
- ・医療関係従事者の時間外労働の是正率
H30 新規 ⇒ 20%
- ・国民健康保険の医療費の縮減率
H30 新規 ⇒ 1%

【目標値】

- ・平均工賃（月額）
13,000 円 ⇒ 19,000 円
- ・介護職員初任者研修を受講し障害福祉サービス提供事業所へ就労した人数
H30 新規 ⇒ 40 人/累計

【目標値】

- ・高校生との懇談会の開催
H30 新規 ⇒ 1 回/年

【目標値】

- ・丹波市に住み続けたいと思う市民の割合（そう思う+まあそう思うと回答された割合）
78.8% ⇒ 80.0%

2060 年の丹波市の将来像：市民一人一人が個性と持てる力を発揮し、持続的に発展するまち